

令和6年度 白鳥中学校区学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年12月13日15:00～16:10

2 場 所 加佐登小学校 図書室

3 内 容

(1) 挨拶

- ・事務担当校（加佐登小）委員長、校長挨拶

(2) 各校学校運営協議会実践発表（一部抜粋）

【加佐登小】

- ・学校経営方針の承認、授業観察を通じた進捗状況の確認をしながら学校関係者評価につなげている。
- ・まちづくり協議会で、1・3年生の昔の遊びくらし、5年生の米作り体験に関わっている。
- ・青パト3台を使用した防犯パトロールを行っている。
- ・学校だよりを通じた加佐登地区全世帯回覧によるお知らせを積極的に行っている。（本日時点で、31号発行）

【石薬師小学校】

- ・学習ボランティアの取り組みを強化し、その様子が中日新聞社にも掲載された。
- ・まちづくり協議会でのいもほり、ウミガメネットワークを通じた学習・交流を行っている。
- ・地域の4名の方に青パトを運営していただいている。また、青パトの運営費を、まちづくり協議会からの支援をいただいている。
- ・夏休みに教職員との懇談会を行い、先生方との交流の場をもっている。
- ・学校運営協議会のための準備会を開き、協議会に向けての事前の話し合いを行っている。
- ・合同の学校運営協議会をふくめずに、年間6回開催している。

【井田川小】

- ・学校運営協議会のメンバー11名で色々考えながら取り組みを進めている。
- ・学校の危機管理マニュアルに熱中症アラート等についての文言追加について意見具申を行った。
- ・学力調査を通して、学校の子どもたちの弱みや強みについて共通理解している。
- ・あいさつ運動では、人としてのコミュニケーション力の基礎を育てるために、積極的に子どもたちへの働きかけを行うと同時に、子どもたちの服装（いつも同じ服装をしていないか、洗濯ができていないかなど）などにも気を配りながら見守っている。
- ・水害の恐ろしさについて学ぶ出前授業を行った。
- ・子どもたちに井田川を守ってほしいという願いを込めて10月に井田川

フェスティバルを行った。校長先生総監督による小学生のダンスチーム発表も行った。

- ・きれいなグラウンドを子どもたちに使ってもらうために除草作業も続けている。
- ・子どもたちのために何ができるかを常に念頭に置いて活動するようにしている。

【白鳥中学校】

- ・小学校と中学校の学校運営協議会はだいぶ違うと感じている。複数の地域が集まって組織ができているので、地域の方々と共にという点では難しさがある。
- ・6回の学校運営協議会を生徒指導、働き方改革、学力向上、不登校対策などテーマごとに担当教員が協議会に出席し、取り組み状況を報告し、熟議を行っている。
- ・子どもたちはSNSも使っており、それに伴う課題も出ている。だめなこと、いいことをどう教え育てていくかが難しい年代である。
- ・自転車の安全教育を、意識を高くして取り組んでいく必要がある。
- ・学校区内での子どもの事故は、同じ中学校区間でも情報共有をより積極的に行っていく必要があると考えている。

(3) 質疑応答・意見交流

- ・自転車通学の際、万が一事故などがあった場合、自転車保険等で対応できるようになっているのか？
→4月に自転車保険の紹介を周知した上で、どうするかは各ご家庭の判断に委ねている。また、通学中の怪我等に関しては、スポーツ振興センターの保険で対応しており、こちらは全員加入している。
- ・中学生の自転車のヘルメット着用率はどの程度か？
→100%である。
- ・自転車使用時に、後ろから車が近づいてきた際の対応の仕方など、子どもたちの自転車を操作する技術も不足してきているように感じる。状況に応じた対応の仕方など、常日頃から啓発していく必要があるのではないかと感じる。
- ・中学校で、自転車指導に関する交通安全教室等を行っているのか？
→新学期当初に実施している。
- ・小学校の自転車乗車時のヘルメット着用率はどうか？
→概ねルールを守って着用している。
- ・小学校での自転車に関する交通安全教室は何年生で行っているか？
→3・5年生である。
- ・自転車に乗り始めた1年生が一番危ないのでは。中学年あたりで実施してる学校が多いようだが、低学年で実施すべきではないか。
→低学年でも、できる範囲で体験させることも検討したいと考えている。

→3年生でも自転車に乗れない子がおり、低学年となると乗れない子やまだ自転車をもっていない子もいるのではないかと推察する。3年生頃から子どもたちの行動範囲も広がり、自転車を使用する頻度も多くなると思われるので、3年生頃での実施が適当ではないかと考えている。中学校入学前に、自転車を新たに購入し直す家庭が多いため、中学校に進学する前の段階で交通安全教室の実施について検討の余地があると考え。

- ・大人側から「こうなさい」といった押しつけは難しいのではないかと。
子ども自身に考えさせどうしたらいいのかをよく考える取り組みが大切ではないか。子ども達が自分で考え納得したうえで行動できるように導いていくことが大切ではないか。
- ・中学校では、子ども達が校則の見直しを主体的に始めている。自分たちでよく考え、ルールを作り上げる中で、決まりを守る意識も育つのではないかと考える。また、こういったことができる学校は、一般常識も子ども達に浸透している学校だと捉えることができるのではないかと考える。
- ・学校運営協議会の場に、児童会の児童に参加してもらって、子ども達の意見を聞く場を設けている。非常に良い取り組みであると考えている。
- ・他の小学校では、学校運営協議会の場で子ども達の意見を聞く場は設けられているか？
→委員会の子どもたちが、学校運営協議会の委員さんの前で発表する場を設けている。今後は、対話できる場も設けていきたいと考えている。
- ・児童会の児童が学校運営協議会に参加する際のタイムテーブルはどのようにされているのか？
→5・6年生の委員会の時間帯に、学校運営協議会を開催し、その時間に児童会の子ども達に参加してもらっている。また、事前にテーマを設定して、それに基づいて子ども達の意見をまとめておいてもらうようにしている。

(4) 教育支援課より

- ・今までは各校での取り組みを交流し合う情報共有の場として中学校区の学校運営協議会が行われていたが、今年はそれを一歩超え、各課題に対する熟議ができたと感じている。「自主性を育むには」という切り口で、小中の9年間で、白鳥中校区の各協議会が連携し、取り組みなどを熟議する中で、どうやって子ども達を育てていこうかという視点にもとづいた話し合いであったと感じている。
- ・この場での話し合いを受けて、各学校に持ち帰って 議論を深めていただければ、この会議の意義がさらに深まることになるかと考える。
- ・自転車はなぜ一列で走らないといけないのかを、子どもが自分で考えるようにさせていくことが大事である。各学校でも話し合っていたきたい。
- ・鈴鹿市は非認知能力の育成に努めており、今回の話もこの点つながる内容であったと考える。各校の学校運営協議会でも、自己肯定感や社会性を育てるための議論を進めていっていただきたい。